

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171500079		
法人名	株式会社 光樹の杜		
事業所名	グループホーム光樹の杜		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町戸丙433-1		
自己評価作成日	令和3年6月1日	評価結果市町村受理日	令和4年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和3年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

料亭の日本庭園をそのまま利用しウッドデッキより四季の移り変わりを感じる事ができ、とても静かな環境にある。現在コロナ感染予防の為、地域密着としての交流や地域行事を控えている。その代わりに入居者様の希望を聞いて、お寿司や中華のテイクアウトを行ったり毎週水、木は日本料理(保名)の食を楽しんで頂ける様に努めている。入所前のかかりつけ医を継続し医療連携を図り入居者様の健康管理を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然に囲まれた高台に位置し料亭の日本庭園をそのまま利用された静かな落ち着いた雰囲気のある平屋の建物である。ホーム内は、明るく、耳をすませば鳥の鳴き声が聞こえ、ダイルームはピアノが置かれており、広い空間の中ゆっくり、日中を過ごされている。長く勤めている職員が多く、働き安さを感じられ、安定した運営がなされている。看護職員も多く、医療機関との連携が図られ、看取り支援も行われ一人ひとりの意向をできるだけかなえられるような支援体制が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	サクラ	タンポポ		サクラ	タンポポ
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	サクラ	タンポポ	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を施設内各所に掲げており、毎日唱和する事で職員はこの理念を基本目標に日々取込んでいる。	法人理念を施設内各所に掲げており、毎日唱和する事で職員はこの理念を基本目標に日々取込んでいる。	理念を施設内に掲示し、毎日唱和している。職員間に少し差があるが、日々の業務に活かせるように務められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治体に参加しており各行事の花見会、清掃等にも参加に努める。しかしコロナの影響で地域のボランティア、老人会、幼、小、中、特別支援との交流を控えコロナ感染予防に努めている。又、手紙、メッセージで交流している。	地域自治体に参加しており各行事の花見会、清掃等にも参加に努める。しかしコロナの影響で地域のボランティア、老人会、幼、小、中、特別支援との交流を控えコロナ感染予防に努め面会している。手紙、メッセージで交流している。	感染症のまん延で今までできていた地域の方との交流ができない状況が続いているが、手紙やビデオメッセージを活用し交流が途絶えないように工夫されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学や相談が出来る様に施設を開放していたり認知症の知識を生かし認知サポートの研修を受講しキャラバンメイトとして認知症について理解を地域に発信していたがコロナの影響で現在控えている	いつでも見学や相談が出来る様に施設を開放していたり認知症の知識を生かし認知サポートの研修を受講しキャラバンメイトとして認知症について理解を地域に発信していたがコロナの影響で現在控えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回ご家族様の代表、民生委員、社協、健康福祉課、地域包括センター、区長、有田有志、施設長、役員、管理者、介護支援専門員が参加し意見支援している。又、資料、議事録を誰もが閲覧出来る様に玄関に置いている。しかしコロナ影響により回数減。6回/年に努める。	年6回ご家族様の代表、民生員、社協、健康福祉課、地域包括センター、区長、有田有志、施設長、役員、管理者、介護支援専門員、が参加し意見支援している。又、資料、議事録を誰もが閲覧出来る様に玄関に置いている。しかし、コロナ影響により回数減、6回/年に努める。	感染症予防対策を徹底し、2ヶ月に1回開催している。運営推進会議では意見が言いやすいように努め、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の介護関係の会に参加している。運営推進会議に町担当者、地域包括担当者も参加して頂き、指導、助言、情報サービスに生かしている。(コロナの影響で開催は減っている)役場に光樹の杜たよりを置き広報活動。	町主催の介護関係の会に参加している。運営推進会議に町担当者、地域包括担当者も参加して頂き、指導、助言、情報をサービスに生かしている。(コロナの影響で開催は減っている)役場に光樹の杜を置き広報活動。	役場にはホームだよりを置いたり、ホームの空き状況を共有したり、積極的に窓口に出向き相談を行い協力関係を築くように取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束しないケアを理解して頂く。年に数回施設外、内の研修に努める。又、常に拘束の問題意識を持つ様にしている。ベッド柵(4柵)必要最低限にと定期的に評価し必要時はご家族の許可理解を得る。帰宅願望の入居者様が数人おり施錠しているが職員手薄の為、常時開放難しい。話し合いにて案を模索中	全職員に身体拘束しないケアを理解して頂く。年に数回施設外、内の研修に努める。又、常に拘束の問題意識を持つ様にしている。ベッド柵(4柵)必要最低限のにと定期的に評価し必要時はご家族の許可理解を得る。帰宅願望の入居者様が数人おり施錠しているが職員手薄の為、常時開放が難しい。話し合いにて案を模索中	研修に参加したり、身体拘束を行わないケアについての理解に努められている。入居者の安全を考えベッド柵の使用について身体制限に当たり定期的に評価をしながら最低限の制限を行っている。また各ユニット入り口に施錠されている。	職員一人ひとりが身体拘束をしないケアについて研修等を通して理解するように務められているが、各ユニットの施錠については、短い時間からでも解除に向けた取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束の研修は常に気掛けており問題ある職員に参加促している。又、職員の苛立つ気持ちの切り替えが出来ているか?把握し虐待防止に努め心のケアをしていく。認知症の施設内教育に努める。	虐待や拘束の研修は常に気掛けており問題ある職員に参加促している。又、職員の苛立つ気持ちの切り替えが出来ているか?把握し虐待防止に努め心のケアをしていく。認知症の施設内教育の実施に努める。		

自己	外部	項目	サクラ	タンボポ	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している入居者様がいらっしゃる。今後も制度に対し理解し、成年後見人との連携で自己決定出来る支援を心掛ける。	成年後見人を利用している入居者様がいらっしゃる。今後も制度に対し理解し、成年後見人との連携で自己決定出来る支援を心掛ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な説明を行い施設見学も随時開放している。(現在コロナ感染予防の為控えている)契約時には利用契約書、重要事項説明書を作成し解約を含め説明し、看とり・状態悪化時の基本的考えを聞き同意を頂き契約を行っている。	契約前に十分な説明を行い施設見学も随時開放している。(現在コロナ感染予防の為控えている)契約時には利用契約書、重要事項説明書を作成し解約を含め説明し、看とり・状態悪化時の基本的考えを聞き同意を頂き契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ロビーに意見箱設置している。又、ご家族様の面会時やお電話時に必要時要望を聞き相談にのっている。必要なアンケート実施し反映させている。	玄関ロビーに意見箱設置している。又、ご家族様の面会時に要望を聞き、必要時相談のっている。しかしコロナ影響で遠方地方のご家族様には時々ラインでの情報交換している。必要なアンケート実施し反映させている。	意見箱を設置したり、個別にアンケートを取り、意見や要望を聞くよう取り組まれている。寄せられた意見等は業務に反映できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度の全体会議に参加し意見、要望を来ている。又、日常も意見交換を行い開放された良い関係に努めている。	毎月1度の全体会議に参加し意見、要望聞いている。又、日常も意見交換を行い開放された良い関係に努めている。	全体会議を月1回行い意見や提案を聞く機会を設け、言いやすい雰囲気作りや提案は反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も勤務表作成に関わり勤務状況を把握する様に努めている。又、不満も代表者自身が必要であれば聞き対応している。労働局より働き方改革による有給、育児休暇、介護休暇、パワハラ等の防止の指導を受け職員に周知している。	代表者も勤務表作成に関わり勤務状況を把握する様に努めている。又不満等も代表者自身が必要であれば聞き対応している。労働局より働き方改革による有給、育児休暇、介護休暇、パワハラ等の防止の指導を受け職員に周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に拘束や虐待の研修は2～3回/年取り入れる様に努めている。しかしコロナの影響により研修参加も難しい。現在、看護学生1人在職し両立しやすい環境、特に勤務表での支援をしている。	特に拘束や虐待の研修は2～3回/年取り入れる様に努めている。しかしコロナ影響により研修参加も難しい。現在、看護学生1にん在職し両立しやすい環境、特に勤務表での支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状コロナの影響により勉強会等の交流を控えている。時々電話でコロナの情報交換している。他グループホームでも問題時は協力体制下にあることを伝えられ連携している。	現状コロナの影響により勉強会等の交流を控えている。時々電話でコロナの情報交換している。他グループホームでも問題時は協力体制下にある事を伝えられ連携している。		

自己	外部	項目	サクラ	タンボポ	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、要望、相談に耳を傾けて信頼関係を築く様に努めているが、ご家族の意見もあり意向に添えない時もある。自己決定が出来ない方はご家族に情報提供の協力や本人様の日常生活を観察し把握に努める。	不安、要望、相談に耳を傾けて信頼関係を築く様に努めているが、ご家族の意見もあり意向に添えない事もある。自己決定が出来ない方はご家族に情報提供の協力や本人様の日常生活を観察し把握に努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日前後の面会により、不安やご要望を把握し対応に努めている。ご家族が常に話しやすい環境を心掛け、信頼関係に繋げている。	入居時や面会や電話にて相談や心配事、意見に耳を傾け出来る範囲で対応しアドバイスしている。又、傾聴する事により信頼関係を築いている。遠い地方のご家族様にはラインで情報交換している。分かり易い出来るだけシンプルな介護計画を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネとの面会で要望や課題を得、職員間で共有し必要な支援の把握や展開を行っている。通院の援助なども行っている。	ご本人様、ご家族様の意見を聞き何を望まれているか把握し支援を心掛けている。日々、問題点や情報交換を行い、記録にて共有しサービスに生かしている。医療に関わる支援はDrと連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能の維持や生かせる環境づくりをもとに家事や作業、体操などを共に行ったり、一緒に食事を摂るなど寄り添った日々を送る事で、理念に沿った家庭的な雰囲気をお互いに大切にして関係を築いている。	工作、オヤツ作りを一緒に作る時、お互いアドバイスしたり一緒に考え調和し理念に添う生活を心掛けています。又、感謝や労いの言葉がけをしています。出来る事をお願いし、生活に張りをもって頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙や光樹の杜便り、時にはお電話で、日常生活や体調報告、ケアプランなどの経過を説明することで、ご本人とご家族の絆を大切に支援している。又、関係が良好であるように間に入り、気を配るよう心掛けている。	ご家族と本人との関係性を無理なく聞き程よく間に入り両方の気持ちや意見に寄り添い関係を築いていく。又、日常生活の楽しい話題等を月1回の光樹の杜便りやお手紙で近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の現在も、様々な安全性を配慮・工夫し、面会継続することで関係性や心身安定の支援に努めている。	時間帯に関係なく面会はいつでもOKである。しかし現在コロナの影響により密にならない様に心掛けた場所で(窓際等)面会に努めている。入居者様の心身の安定保持の為に面会は継続し工夫して支援に努める。	感染症予防対策を行いつつ、行きつけの美容院やお寺参り、趣味の俳句仲間との関係等一人ひとりのこれまでの関係が途切れないように工夫し支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や相性、その時のメンタル面や状態により座席等の環境を配慮し、孤立なく過ごして頂けるよう会話や活動を工夫し、職員の立ち位置を考え援助している。	入居者様同士の性格、個性、相性を把握し、最良の関係が築ける様に支援に努める。入居者様に目配りし孤立しない様に声掛けしたり職員が間に入り会話を繋いだり配慮に努める。		

自己	外部	項目	サクラ	タンボポ	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご自宅(初盆)へお参りしている。今回も退去されたが運営推進会議へメンバーの継続を快く引き受けて下さる。退去のご家族に町内で会い、言葉を掛け合いフォローしている。	退去後もご自宅(初盆)へお参りしている。今回も退去されたが運営推進会議へメンバーの継続を快く引き受けて下さる。退去のご家族に町内で会い、言葉を掛け合いフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が思いを話しやすいように1対1で希望を聞いたり、日々の会話の中で察し職員間で共有・支援に繋げている。困難な方は表情や言動・ご家族情報で把握に努めている。	自己決定可能の方は意志を尊重する様努める。心身の健康に関わる事はご家族様に相談し許可の元、希望に添う様に努める。意思疎通困難の方は毎日の暮らしの中で表情、会話観察で個々の求める事を察していく。	本人、家族からの聞き取りだけでなく、会話の中から知り得た情報を申し送り簿に記載し職員間で情報共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報のほか、日常の会話からも生活歴の把握を行っている。ご家族や知人の面会時にもお尋ねし情報収集に努め、これまでの暮らしに近くお好みの生活ができる様に工夫している。	入居される事前に基本情報を収集し最適な環境作りに努める。又、高齢者は大きな環境の変化に影響を及ぼす為、情報交換しながら環境変化に戸惑いが生じない様に最小限に努める配慮をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回のバイタル測定、毎週の体重測定に日々の申し送りや指示簿と共に表情や言動の観察で心身の把握や共有を行い、不安や変化、異常の早急な発見等に努めている。	2回/日バイタル測定や毎日接している中でいつもと違う言動や心身状態を察知する様に全職員が努め早期の対応していく。又、本人らしく生活を送れる様に支援していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議や必要時にモニタリングを行いケアプランに反映させている。ご家族には電話や毎月のお手紙、面会時に課題や経過説明したり、希望を聞き取り反映している。	ユニット会議や必要時に本人様の課題、希望等を話し合いプランに反映させる。又、その都度問題点に対し意見交換をし早期解決を図る。プランの変更や追記されていない時は手書きで対応している。	本人・家族の意向に沿った計画を立て、定期的に評価を行い現状に即した介護計画であるか見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録記入はできており、情報交換や共有、ケアプランへの見直しにも活かしているが、記録力や観察力の差やケアプランに基づいた記録ができていないことがあり、今後の課題である。	日々の気づきが必要であればケアプランに追記している。又、プランに添っての記録が不十分な所もある。今後の課題である。日々の生活の記録や気づきの情報交換を行いプランに活かしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や入退院支援、冠婚葬祭支援など、ご家族の構成や遠方のご家族などの状況に応じ相談にのり、できる限り柔軟な対応に取り組んでいる。	通院介助、入院介助、冠婚葬祭支援、帰省外泊支援等、入居者様の状態によりその都度臨機応変に対応していく。現在コロナの影響で支援も滞っている。		

自己	外部	項目	サクラ	タンボポ	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦の中、地域との交流を控えている。落ち着いたら又、幼稚園、小学校、中学校、地域行事、ボランティア、老人会など地域資源の活用を行い活性化を図る。	コロナ渦の中、地域との交流を控えている。落ち着いたら又、幼稚園、小学校、中学校、地域行事、ボランティア、老人会など地域資源の活用を行い活性化を図る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	極力入居前のかかりつけ主治医との連携やご家族の意向に添い施設側からの受診やご家族支援による受診。又、受診後の報告はその都度している。主治医より定期的な往診もあり。協力医院との連携で緊急時看取りも適切な医療が受けられる様に支援している。	極力入居前のかかりつけ主治医との連携や御家族の意向に添い施設側からの受診や御家族支援による受診。又受診後の報告はその都度している。主治医より定期的な往診もあり。協力医院との連携で緊急時看取りも適切な医療が受けられる様に支援している。	かかりつけ医の受診が継続できるように支援されている。他科受診についても家族と協力しながら適切な医療が受けられるように支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師が常勤し現場との関係を密にしている。看護師連携ノートの活用により入居者様の変化時の対応が共有され悪化予防に努めている。必要時看護指示をして記録され目視し、共有を図っている。	毎日看護師が常勤し現場との関係を密にしている。看護師連携ノートの活用により入居者様の変化時の対応が共有され悪化予防に努めている。必要時看護指示をして記録され目視し共有を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーにはその方の特徴、症状以外にも細かい事項を記載し、環境変化による緊張緩和を図っている。	入院時サマリーにはその方の特徴、症状以外にも細かい事項を記載し、環境変化による緊張緩和を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族様本人の意向を聞き看取りの説明をしている。病状悪化時は説明をその都度行い記録に残しご家族様と本人の意向を確認し共有している。	入居時に御家族様本人の意向を聞き看取りの説明をしている。病状悪化時は説明をその都度行い記録に残しご家族様と本人の意向を確認し共有している。	重度化した場合の意向確認書類を作成されており、一人ひとりの意向を大切にし看取りの支援も行われている。医療機関との連携を図りその都度意向の確認を行いチーム支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間のナースオンコールによる連絡時は対応している。夜勤者は協力し情報を共有し異常時は早期に連絡、連携を行っている。又、施設内研修を行い医療的知識を深めている。	夜間のナースオンコールによる連絡時は対応している。夜勤者は協力し情報を共有し異常時は早期に連絡、連携を行っている。又、施設内研修を行い医療的知識を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(春秋)に消防訓練実施している。(必ず新職員には参加する様に組んでいる)短時間の避難にシート活用、心肺蘇生、DVDによる指導、防災計画マニュアル作成し非難場所、方法、担当記載し職員に周知促している。又、緊急連絡網を配っている。	年2回(春秋)に消防訓練実施している。(必ず新職員には参加する様に組んでいる)短時間の避難にシート活用、心肺蘇生、DVDによる指導。防災計画マニュアル作成し非難場所、方法、担当記載し全職員に周知促している。又、緊急連絡網を配っている。	年2回火災訓練が行われ、うち1回は隣の地区から消防団が参加し訓練が行われているが近隣住民の協力や地震、水害等の他の災害について体制作りは至っていない。	災害対策として、夜勤専従職員の参加や備蓄等マニュアルの見直しや、近隣住民へは協力の案内等協力体制が築けるような取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	サクラ	タンボポ	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を損なわないよう言葉かけや対応を心掛けているが、まだ努力や工夫が必要である。トイレや入浴ではタオルを掛け肌の露出に気遣い、入浴時希望者には同性の介助を実施している。	個人の尊厳を大切にと努めている。居室に入る時は本人への声掛け又は、ノックしている。トイレ、入浴時にはタオルをかけ気使いに努めている。又、排泄時の言葉かけに配慮されておらず今後改めて行く必要あり。又、居室での清拭時はカーテン開める配慮に努めている。	言葉かけについては、日頃から尊厳を損なわないように心がけている。呼称については、気持ちを汲み取り、家族の了承のもと呼称を変えて対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を引き出せるよう質問内容を分かりやすくしたり、トイレや臥床、飲食の選択など日常の事から自己判断ができる様、声掛けやジェスチャーで働きかけている。	入浴など「入りたくない」と意思表示される。尊重もしていく。又、表情、不穏を察し対応し自己決定が可能な方には話しやすい環境や言葉かけを心掛ける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや状態、希望に沿った1日を支援できる事を目標に努力しているが、急がせたり待たせたり業務優先となってしまう場面がみられる。又、コロナ禍で希望に沿えない事が多かった。	業務よりも入居者様を優先に気持ちに寄り添うに努める。個々のペースに合わせ無理強いをせずに対応心掛ける。パーソン・センタードケアに努め、その方らしい生活を送って頂く様に支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	約2か月に1度の訪問美容をはじめ、マニキュアや化粧を行事ごとを中心に楽しんで頂いてるが回数を増やしたい。日々、身だしなみを忘れないよう鏡を見て頂く様に努力している。	訪問美容の利用で散髪、パーマ、カラーと希望に添っている。又、毎日の化粧や髭剃りを出来る人はして頂き清潔感に心掛けている。行事時にはマニキュアを塗り気分を変えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いなものは中身を変え提供し、出前の日は個々好きなものを注文したり、季節に添った調理レクを定期的に行い食への関心を高める工夫をしている。普段、職員が各テーブルにつき楽しく食事ができてる。できる方には血洗いや下ごしらえ、お盆やテーブル拭きを個々にお願している。	個々の出来る(皮むき、食材分け、ごますり、卵むき、巻きずし、つわむき、御稲荷、ぼた餅、オヤツ作り、食事の味見等)季節感を大事に日常生活へ取り入れ支援している。鏡モチ作りの大きさも相談し職員と共に楽しいひと時に努めている。お食後の血洗いも自ら進んでされる。無理ない様配慮を。	毎週水曜日は馴染みの料亭から食事をとったり、アンケートを取り食事が楽しめるように努められている。調理ではごますりや卵むきの手伝い等一緒に行うように取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて刻みや粗ミキサーなど形態や量、盛り付け、器など個別に配慮している。食事摂取量や水分摂取量の記入により個々の把握をし、牛乳や野菜ジュースでの栄養補給や希望の飲食も取り入れている。	栄養士不在の為、金/週の体重測定を一応の目安にしている。又、本人様の好みを聞き水分を提供し補給に努める。個々に合わせ刻みや、体調に添いロミをつけたりと情報交換し対応している。食思低下時は甘酒(飲む点滴)提供し体力回復を図る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員付き添いで口腔ケアを実施。舌ブラシや口腔スポンジ、ガーゼを個別に使用。うがい薬や義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。	毎食後、口腔ケアを実施しうがい薬を使用している。個々に合わせガーゼを使用したり舌ブラシで磨き残しが不安な方には使用している。義歯管理は毎日ボリデントを使用し清潔保持に努めている。又、口腔体操を取り入れている。		

自己	外部	項目	サクラ	タンポポ	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。リハビリを布パンツにしたり、夜間はオムツ使用の方も日中はリハビリにトイレ排泄を行ったり状態に応じた支援を行っている。商品金額を明示し経済面も考慮に繋げている。	個々の体調や排泄の変化に応じパットの使い分けを行い情報交換している。布パンツよりリハビリになる時もあるが逆にリハビリが布パンツに。又、パットが尿取りパットに変わり自立される方もいる。商品金額を明示し経済面考慮に繋げている。	日中は、トイレへ誘導し、排泄パターンを把握して自立した排泄ができるように取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により排泄パターンを把握しコントロールを行っている。マッサージや運動、水分摂取などで便秘予防に努めている。困難時はNSとの連携で薬剤調整により自然排泄を心掛けている。	排泄チェック表の利用により排便コントロールや排泄不良時は腹部マッサージや水分摂取、プルーン、運動を試みる。されども困難時はNSと連携し担当医に報告、指示薬の内服し自然排泄を心掛けてる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	1週間ごとに入浴日を決めてはいるが、その方の気分や状態、生活や希望により日程や回数を増やしたりなど柔軟な対応を行っている。希望の方には同性の介助にしたりと個々の支援をしている。	体調、気分、外出により入浴の順番は柔軟に変更、交代している。限度はあるが無理強いせず極力本人が気持ちよく納得して頂く様に入浴に努めている。個々に合わせ入浴用椅子の使用で本人様の負担を減らしている。安全確保の為、場合により職員2人介助で対応する。	入浴は週2回、午前中を予定しているが、気分や希望により入浴日や順番を変更し、無理強いないように、努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣や体調、気分、希望にあわせ、午睡や臥床介助を個々に行っている。入床前は傾聴や飲水タイムを設けたり、夜眠れない方は無理強いせず職員と共にリビングで過ごして頂いている。	消灯時間は決めておらず個々の今までの就寝時間で継続している。リビングは解放し語らいの時間やテレビ視聴として頂き眠りの質を高めている。入床前には興奮、怒り等の感情起伏が無い様に穏やかに過ごして頂く様努めている。希望者にはコーヒやお菓子を提供し楽しい時間を考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースに内服薬情報を入れ常に確認でき臨時薬や変更は指示簿などで伝達する。週1月1の薬は指示札を目につく箇所に置き内服防止に努める。与薬時は呼称する事で誤薬防止に努め内服まで見守る事で確実な介助に努める。	ケース記録のバイタル表に薬の説明書を貼付している。又、薬手帳により把握して貰っている。新しい薬に関しては看護婦の指示書の活用により理解を促している。服用時は日時、名前、を声に出し確認し誤薬防止に努める。又、服用後の空袋のチェックを行い確認し未服用の防止にも役立っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や好みを把握し、個々の現状に合った役割や楽しみを提供している。家事やレクばかりではなく、晩酌や居室に仏壇を設けお供えやお参りを毎日行ったりと希望者には臨機応変に対応している。誕生会は大変な日として隣棟も含め施設全体でお祝いしている。	個々に出来る家事やレク、体操、ストレッチを強制する事なく励まし時には見守り少しづつでも遣り甲斐を持って頂き楽しい時間となる様に努める。サクラ棟と情報交換にて合同誕生会を行い大切な日として気分転換に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、定期受診以外の外出は厳しい状況だが、緩和の時期には車中のみのドライブや出前デイを行うことで、外出支援にかえている。また施設周りの散歩やレクを行い、外の空気を感じれるよう工夫している。	外来受診も含めドライブ(花見)と支援しているがコロナ対策として車内より降りない様に現在は感染予防を優先している。又、暖かいウッドデッキを利用し日光浴や外気に触れ解放感を味わって頂く。	散歩をしたり、ウッドデッキで外気浴をしたり、自然に触れる機会が多く日常的に支援がなされている。	



自己	外部	項目	サクラ	タンボポ	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な方は通常から所持頂き自由に使用頂いているが、殆どの方が管理困難な為、施設での管理となっている。外出時は職員が付添いの元で一緒に希望の買い物を行っている。	少額を所持している人は数人いるがコロナで外出を控えている現在では注文に応じて化粧品、嗜好品、衣類等の購入し希望に応じている。金銭は大多数の方は施設で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持されてる方は自由に連絡されてる。その他の方は希望時に施設の電話を使用。文字が書ける方は年賀状や手紙を出せるようにレクレーションの中で習字と共に学習レクとして機会を作っている。	字を書ける人には手紙を書いて頂いている。又、携帯保持の方は2名おり自由に充電し連絡されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や施設全体に湿度計を設置。リビングに空気清浄機を設置し快適に努めている。日常はウッドデッキにて外気浴やレクレーションを行い花や木・鳥の声を感じたり、施設内や居室には季節ごとの飾りや入居者様の作品を展示。時に入居者様の大声が響き深いを与えてる事が課題である。	各居室やリビングに温度計、湿度計を設置し適切な数値のキープに努める。又、その季節に応じた折り紙、塗り絵等の作品を入居者様と作成し飾り季節感を取り入れ展示している。又、テーブルには季節の花を生けて頂いている。席も入居者様の相性に合わせ臨機応変に交代して居心地良い空間作りに努める。テレビの音量にも配慮している	ホーム内は、広く明るい環境で風通しがよく、季節に応じた掲示物が飾られ居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個性や相性、その時のメンタル面に合わせ座席や居場所を臨機応変に考慮し独りを好まれる方には個別の席を提供している。リビングにはソファを置き自由に使用できリラックスして頂いている。	リビングにソファを並べ、誰でも座れる様にしている。又、庭園を見れる様に設置し開放的な環境に努める。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に相談の上、思い入れのある物や使い慣れた家具を持参頂いている。居室内にはプレゼントの品や写真を飾り心地よい空間を作っている。又、仏壇や写真を備え、お供えしたりお参りされてる方もおられる。	入居時はご家族と相談し使い慣れた家具、衣類、持ち物を持参して頂いている。又、本人様の希望される品物を購入する時もある。壁の展示も自由にと伝えている。ベッドの配置を本氏と相談したりする。しかし、レベル低下に応じ危険と判断した配置は本人様、了解の元配慮する事も。	大きな家具は持ち込みできないが、使い慣れた家具等持ち込みは自由で、居室入り口には手作りのネームプレートがあり、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自由に移動できる様環境整備や声掛けに務め各居室入口には表札、トイレを明記している。又、目に付きやすい場所にカレンダーや献立、時計、行事内容や作品を貼付し自立に繋げている。	個々の出来る事を見極め安全に充実した自信に繋がる様な声掛けに努めている。カレンダーを大きく文字で掲げたり毎日の献立や月の行事、トイレの場所が解かりやすい様に大きな文字で明記している。他各職員がアイデア、工夫している。		